

「民主的改革」を深めよう

中西理事長講演



労働省中庭をうめつくした失対打切反対集会(昭和45年)



「良い仕事をし、国民の要求と信頼にこたえる」

事業団について、私の考えていること、組織的に議論してきたことをお話ししたいと思います。今日は、第一に、事業団とは何であるのか、なぜ必要なのか、なぜそのような

六月十二日、東京のやまて企業組合、城南クリエーション、北多摩サービス企業組合の三事業団と建設一般全日自労東京本部などの共催で、事業団の学習会が行われました。学習会では、事業団全国協議会の中西理事長(全日自労建設一般労働組合中央執行委員長)が、事業団の理念・目的と、原則について、四時間にわたって、熱のこもった講演を行い、参加者の感銘をよびました。本号では、この講演を、ほぼ全部紹介いたします。団員、事務局の学習に活用してもらおうと同時に、みなさんの意見や疑問をよせてもらい、事業団教科書の第一冊として完成していきたいと思っております。

ものが生まれてきたのか、第二にどうすれば事業団活動はうまくいくのかという点についてお話しします。

失対切

失対切

失対切

失対切

失対切

失対切

失対切

失対切

失対切

失対切

失対切

失対切

事業団七つの原則

- 一、良い仕事をやり、地域住民、国民の要求にこたえる事業をこなし、事業団の発展に努める。
- 二、民主、公正、公開の原則を遵守し、経営能力を高める。
- 三、労働者の生活と福利の増進をこなし、労働組合の健全な発展を支援し、組合活動を支援する。
- 四、労働者の生活と福利の増進をこなし、労働組合の健全な発展を支援し、組合活動を支援する。
- 五、労働者の生活と福利の増進をこなし、労働組合の健全な発展を支援し、組合活動を支援する。
- 六、労働者の生活と福利の増進をこなし、労働組合の健全な発展を支援し、組合活動を支援する。
- 七、労働者の生活と福利の増進をこなし、労働組合の健全な発展を支援し、組合活動を支援する。

事業団 学習・ 討論版

う手段にうったえます。

それまでは、失業者であれば、失対事業に自由に入れた。職安へ行つて申込みすれば、手帳をくれて、翌日からでも働けたわけだ。

この入口をじよにしようとして、昭和四十六年には完全に閉ざしてしまいました。それ以降、十二年間、失対事業には一人も入ってこず、いまでは、失対就労者は、七万人を切っているわけです。

失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

それまでの、私たちの労働省とのわたり合いかたは、大動員やねばり強い交渉など、大衆行動が中心であった。失対事業をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

失対をどう守るか考えぬく。私は、昭和四十一年まで本部の委員長をやったあと、三重県松阪市へ帰り、そこでどうすれば政府や労働省の打ち切り攻撃をはね返して、失対事業を守れるか、ということをやった。

組合中がハチの巣を

つづいたような議論に

しかし、これが、てんやわ
んやになるわけですが、今までは
舗装や草取りが中心で、あ
まり働かないから、賃金の差
も二三十円だった。しかし
本間にブルや舗装をやるた
めに、良い働き手を集めよう
と思うならば、草取りと二
三十円の差しかないのでは集
まりません。そのためには、賃
金の差をつけよう、組合の
執行部が提案したわけです。

それまでは、賃金格差など
は、労働者の分裂のためにや
るものだから、絶対反対だ。
そもそも権力をとるために
は、なるべく働かずに、政治
・経済を混乱させるべきだ、
という考え方でしたから、こ
の提案に対して、組合の中
では、ハチの巣をついたよう
な議論になりました。中西委
員長は、頭がおかしくなった
のではないかと。市役所からお
金をもらっているんじゃない
か、という声まで出ました。

しかし、私も思いつきで言
ったわけではあります。長い
間、労働省や自民党と血み
どろの戦いをやってきて、ど
うやら勝つてきたので、こ
う考えた結論ですから、私は
一歩もひきませんでした。

町「民革」の案は
はげしい議論の末に、最後
には、私の主張が通るわけ
であります。全員投票で五百人
近くのうち、反対は十五、六
票でした。失対を守るため
に、いっちゃんやってみる
かというふうに、みんなの意
識が変わったわけです。

そこで、市役所にも了承さ
せ、就労者の希望によって、

ブル班や舗装班などの班編
成を行いました。一日四時間
びつたり働かすわけですから、
仕事も進み、地域から非常に
よくこんでもらえました。

町内で署名などをお願いして
も、自治会で回してくるよ
うになりました。

そんな中で、だんだん組合
員も、こうしたほうがトク
だ。なまけて白い眼で見られ
るより気分がいい、と考え方
が変わっていいわけです。
今までは市議会も、なんで

失対にお金を出さなければなら
ないのか、同和地域だから
しかたがない、とか言ってきた。
市議会がガタガタ言う
と、三、四百人が議会におし
かけるわけで、こわいから、
しかたがない、ということ
で通っていました。

そうした中で良い仕事をや
りましたから、みんな大歓迎
で、ついに市議会が満場一致
で失対打ち切り反対を決め、全
会派そろって労働省へ行くま
でになりました。

このようにことから、事業
団の第一の原則「良い仕事を
する」、言いかえれば民主的
改革・略称「民革」という考
え方が確立してきました。

民革は、第一に、国民のた
めに制度なり、事業なりを改
革することであり、良い仕事
を、自覚的、自発的にやるこ
とであります。

こういうことでやるなら
ば、事業団は、どの企業とも
対抗できると思うわけです。
国鉄が、いま赤字で問題に
なっていますが、労働組合の
側——この場合、国鉄が、国
民のための国鉄を再建し、赤
字も克服する、という考え方
が必要なのです。残念なが
ら、いまの国鉄には、こうい
う考え方がなく、政府や自民
党の合理化案に押されている
という現状です。

労働者が政策を対置する
民革は、このように、労働
組合が政策を対置する闘争で
もありません。労働組合が、た
だ反対、反対だけでやってい

ては、ダメなんです。
私たちは、失対でも、失対
改革の七項目提案というもの
をやったわけです。労働省は
失対をポロクンに言うし、事
実欠陥もあつたわけですから
私たちもいっしょに改善を提
案したわけです。単に反対だ
けでなしに、積極的建設的な
提案が民主的改革では重要な
ものになります。

労働組合の強力な武器
Ⅱ「合意・賛同」
この提案の中で社会的合意
を求める、「合意・賛同運
動」がおこります。

労働組合には、闘うための
三つの武器があります。一つ
はストライキ、デモ、全国統
一闘争などの大衆闘争です。
第二には、社会的合意運動で
あります。

しかし、日本の労働組合運
動では、この社会的合意運動
はやられていない。私たちが
日自労が、第一次三年闘争の
中で初めてやったわけであり
ます。このとき、二六〇の
市長や全国会議員の六割の合
意を得る画期的な運動となり
ました。

三つの武器の最後は、選挙
や革新統一などの政治闘争で
あります。

労働組合は、これらの三つ
の武器をうまく結合して、使
いこなしていかなければなら
ないのです。

ストやデモ、全国統一闘争
を基礎にしながら、国民から
支持される方針を出して、国
民的な討論をかためながら、
相手のたたかう——こうすれ
ば、たとえ批評なども建て
なおせるのです。ところが、
残念ながら、日本の労働運動
は、このことを知りません。
中間的な幹部である横枝さん
や富塚さんも、このことを知
らないし、やりません。

「雇われ者根性」を克服
し労働者が経済をにぎる
民主的改革は、労働組合の
イニシアチブ(主導権)で進
めなければならぬ、という
ことが大きい点です。

民主的改革の立場というの
は、「雇われ者根性」——
「手をぬいてやろう」「楽し
てやろう」「うまいことをや
ろう」「もうものは、ひと
より多くもらおう」という考
え方を克服したものでありま
す。

そういう考え方を持ってい
るあいだは労働者は改革の立
場には立てません。制度や事
業、企業を改革する立場に立
ってこそ、労働者は、日本の

経済に重要な役割をはたす、
指導的勢力になります。

労働組合がイニシアチブを
とり、積極的変革の立場に
立つことであります。

きいものです。
理事になって、事業団が成
功したら、給料をいくらもら
って安泰になりたい、という
ことを目的にして事業団をや
るのではありません。やめた
方がいいと思いませんか。
国民のために良い仕事をや
り、信頼され、何よりも、民
主的変革の立場に立つて、労

働者や労働組合が日本の経済
をにぎっていくんだというこ
とです。

そのためには、いろいろな
ことをしなければいけない。
勉強もしなければいけないわ
けです。技術の勉強も、そう
です。なまけていてはダメで
す。

第二は、「自主・民主・公
開」の原則であります。
事業団は、労働者が日本経
済を変えていく拠点にならう
というわけです。当然、
「自主・民主・公開」、つま
り非常に民主的なものでなけ
ればならない。これが、一般
の会社組織とは全然ちがうわ
けであります。

それでは「民主」とは何で
しょうか。みなさん、何だと
思いますか。多数決でしょう
か。幹部の言うことを聞くこ
とですか？

「民主」というのは、何よ
りもみんなで討論をすること
です。一部の人たちだけの考
えでやらない、ということ
です。

また、公開というのは財政
を公開することです。
もちろん事業団が生きてい
くためには、つぎの事業の
ために利益の何割かは蓄積も
しなければいけませんので、
単純に利益の全部を配分する
ということにはなりません。
しかし、やはり、経理の公
開、公開の原則が重要であ
ります。

労働者や労働組合が日本の経済
をにぎっていくんだというこ
とです。

そのためには、いろいろな
ことをしなければいけない。
勉強もしなければいけないわ
けです。技術の勉強も、そう
です。なまけていてはダメで
す。

自主・民主・公開について

覚と自覚性が出てきます。

事業団の事業計画、方針は
みんなで討論し、なっとくし
て決める。そのなっとくの中
から、自発的にやろうという
気分が生まれてくる。つま
り、みんなで討論、みんな
で決定、みんなで行く——こ
れが民主主義なんです。

このことは、事業団であ
ろうと、労働組合であろうと、
その他いろいろの大衆団体が
ありますけれども、大衆団
が、組合員なり団員なりに支
えられて進んでいくためには
どうしても必要なことであり
ます。

自主というのは、いろいろ
なところからお金をもらった
りして、従属しないというこ
とです。

また、公開というのは財政
を公開することです。
もちろん事業団が生きてい
くためには、つぎの事業の
ために利益の何割かは蓄積も
しなければいけませんので、
単純に利益の全部を配分する
ということにはなりません。
しかし、やはり、経理の公
開、公開の原則が重要であ
ります。

労働者や労働組合が日本の経済
をにぎっていくんだというこ
とです。

そのためには、いろいろな
ことをしなければいけない。
勉強もしなければいけないわ
けです。技術の勉強も、そう
です。なまけていてはダメで
す。